

話題の講義ライブ
LIVE 2012

OSAKA UNIVERSITY 大阪大学



OSAKA UNIVERSITY

医学部 保健学科

5.25.Fri. at Suita
13:00~14:30

永井 利三郎 教授

Today's Program **臨床小児科学**



いつか自分が受け持つ 子どもの命を救うために

講義の流れ

スライド映像などの資料を見ながら、子どもの病気とその治療方法について学ぶ。

子どもの発達の過程から、さまざまな疾患への対応、また新生児や未熟児などへの対応まで、子どもたちの命に直結する知識と技能が身につけられる。

醍醐味

日々、患者の命と向き合う仕事

100人ほどの学生が見上げる教室前方のスクリーンに、赤黒いレバーのようなものが映し出された。これは乳児の副腎に発生した腫瘍の写真です。こんなうついものが2歳とか3歳の子どもの体のなかにできるんだから大変です。私が医者になつたばかりの頃は、このぐらいの腫瘍が見つたらまず助からなかった。手術で取つてもすぐに再発していました。

次々と映される図表や写真を解説するのは、大阪大学医学部保健学科

看護学専攻で臨床小児科学を教える永井利三郎先生だ。永井先生は、大阪大学医学部を卒業後、国内外のいくつもの病院の小児科や研究所で医師として働いてきた。子どもの神経の病気を中心に研究を行いながら、現在も大阪府下の学校、保育園、養護学校や療育施設などと連携して、発達障害児やてんかん患者の生活支援のための活動を行っている。

本日の講義テーマは「血液と腫瘍」。子どもたちの命に関わる病の二大原因が、血液のガンである白血病と、内臓や脳にできる腫瘍だ。

「集学的治療」で 子どもの白血病も助かるように

食い入るように聞き入っている。学生のほとんどは将来、看護師や保健師をはじめとする医療のプロフェッショナルを目指す。「命がけ」という言葉があるが、医療とは、まさに

日々患者の命がかかっている仕事だ。講義で学ぶことが将来受け持つ患者の命に直結するだけに、先生の言葉は一言たりとも聞き逃さない。



細胞の回転が早いというところは、一方で、治療のチャンスも大きいことを意味する。「子どもは抗がん剤や放射線治療に対しての感受性が大人より高いので、早期発見できれば治癒できる確率はかなり高まります。以前は白血病と診断がつけ

ば、ほとんど助かりませんでした。しかし最近では、投薬と放射線治療、手術を組み合わせた集学的治療により、多くの子どもが助かるようになっていて、白血病や肉腫も初期であれば八割治ります。阪大病院にも常に患者のお子さんがいますので、皆さんも小児病棟で働きたければ、必ず受け持つことになるはずです」

白血病や悪性腫瘍の治療では、どんな順番で薬を使い、どの時期に手術をするかが重要となる。まず抗がん剤によってガン細胞を叩き、ゼロになるのを目指す。数値が減ったからといって安心しては、どこかにガンが生き残っている可能性があるため、注意深く経過を観察する。再発があった場合は、骨髄移植の治療を考慮することになる。

VOICES 学生の声 of University Students



山崎 明さん(左)
医学部 保健学科2年生

僕は一度、違う国立大学の文学部に入学し、3年生のときに中退して、大阪大学に入り直しました。そのきっかけは、自分の家族が長期入院したときに出会った、病院で働くプロフェッショナルな人々の姿に感銘を受けたことです。将来は自分も、ガンの治療をサポートする仕事に就きたいと思っています。

木村 有花さん(右)
医学部 保健学科2年生

私がこの学部を選んだのは、高校生のときにテレビドラマ「コード・ブルー」を見たことがきっかけです。現場にヘリコプターで飛んでいき緊急救命活動を行う「ドクターヘリ」の活躍に憧れて、「自分もフライトナースになりたい」と希望するようになりました。勉強は難しいですが、目標につながっているのだから苦にはなりません。

目指すは
医療のプロフェッショナル！

骨髄移植では、その前に生体検査をすることが必須となる。この日の講義では、血液や腫瘍についての基礎知識と同時に、現場で働き始めたときに役立つ検査の知識も教えられた。



「造血機能を調べるための骨髄検査では、腰にある後腸骨稜に専用の針を刺して骨髄液を採取します。以前は胸の真ん中にある骨に刺していたんですが、深く刺さり過ぎると貫通してしまい危ないので、今では行われ

ていません」

学生たちは講義で学んだことを、3年から4年にかけて行われる臨地実習で実体験する。行き先は大阪大学の医学部附属病院をはじめとする医療現場だ。それまで学んできた理論や知識を、体験を通じて血肉とし、患者が何を求め

資料の請求および
お問い合わせ先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1 大阪大学学生部入試課
電話：06-6879-7097
メール：gakusei-nyusi-dai1@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学

文学部

人間科学部

外国語学部

法学部

経済学部

理学部

医学部

歯学部

薬学部

工学部

基礎工学部

〔沿革・歴史〕

1724年 懐徳堂創設
1838年 適塾創設
1931年 医学部と理化学部の2学部からなる我が国6番目の大阪帝国大学創設
1933年 工学部設置
1947年 大阪大学と改称
1949年 学制改革により理・医・工・文・法の5学部を設置一般教養部設置
1951年 歯学部設置
1955年 薬学部設置
1961年 基礎工学部設置
1967年 大阪大学医療技術短期大学部設置
1972年 人間科学部設置
1993年 医学部保健学科設置
2004年 国立大学法人に移行
2007年10月 大阪外国語大と統合し、外国語学部設置

〔オープンキャンパス情報〕

8月 6日(月) 人間科学部
8月 7日(火) 医学部(保健学科)、外国語学部
8月 8日(水) 法学部
8月 9日(木) 工学部
8月10日(金) 歯学部、基礎工学部
8月17日(金) 薬学部、理学部
8月21日(火) 医学部(医学科)、文学部
8月22日(水) 経済学部

※詳細は、大学ホームページをご覧ください。



なが い としきぶ ろう
永井 利三郎先生

昭和49年 大阪大学医学部卒
昭和50年 兵庫県立西宮病院小児科
昭和53年 滋賀医科大学解剖学助手
昭和55年 カナダブリティッシュコロンビア大学
精神科付属神経科学研究所勤務
昭和59年 兵庫県立西宮病院小児科医長
平成元年 大阪大学医学部小児科講師
平成7年 同助教授
平成8年 市立豊中病院小児科部長
平成14年 大阪大学大学院医学系研究科
保健学専攻 教授
平成18年 大阪大学医学部子どものこころの発達研究
センター教授兼任

資料請求は簡単! 本紙に掲載した大学(私立大学のみ)の案内資料は、**P36のハガキ**、または東進のウェブサイト**www.toshin.com**から請求できます。